



利益は出ているのにお金が
残らない会社の共通点5選

はじめに

あなたの会社、ちゃんと利益は出ているのに

「なぜかお金が手元に残らない」と感じたことはありませんか？

実はその状態、特別なことではありません

はじめまして、株式会社プライムステージの福田稔也と申します。

多くの中小企業で“お金が残らない”原因には、共通するパターンがあります。

税理士からは「節税はできています」と言われても、
気づけば口座残高が心もとない。

そんな気づかぬうちに減っていくお金への不安を放置していると、
いざという時に資金が動かせないという事態にも。

この冊子では、そうした「お金が残らない会社」に共通する
5つのポイントをシンプルに整理しました。

いくつ当てはまるか、ぜひチェックしてみてください。

① 個人のBSとPLを作っているか

会社の数字には詳しい社長でも、

「自分自身のお金の流れ」は案外ざっくりとしか把握していないことが多いものです。

会社には貸借対照表(BS)や損益計算書(PL)があるのに、

個人の家計や資産状況は“なんとなく”で管理している。

これでは、いくら会社で稼いでも、どこにどれだけお金があるかが見えなくなります。

たとえば

役員借入金はどのくらい？

退職金はいつ・いくら受け取る予定？

生命保険は誰のため、何の目的で？

こうした“個人のお金の見える化”をしないままでは、

資産形成はもちろん、出口戦略も立てようがありません。

まずは会社と同じように、自分のBSとPLを持つこと。

それが、社長のための「お金を残す戦略」の第一歩です。

② 営業外収益の仕組みはあるか

多くの中小企業が、会社のお金を「本業の売上」だけで増やそうとします。

「本業が順調だから大丈夫」

そう思っていた会社ほど、ある日突然「資金が回らない」という壁にぶつかることがあります。

本業だけに頼った資金構造は、思っている以上にリスクをはらんでいるのです。

売上が十年先まで安泰と言い切れるか？

景気や顧客の変化に、何も影響を受けないか？

こうした不確実性に備えるためには、

本業以外でお金を増やす仕組みが必要です。

たとえば、今ほとんど使っていない資金をどう活かすか、

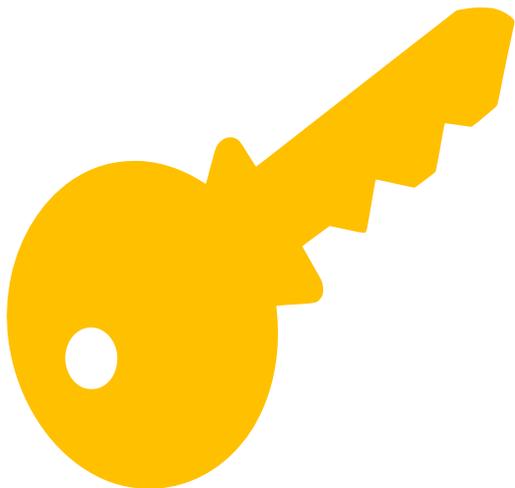
退職金の原資をどう積み上げていくか。

そうした設計がないままでは、

利益が出ていてもお金は残らないという現実に直面します。

会社の中に、本業以外でお金に“働いてもらう”仕組みがあるかどうか。

それが、次の十年を左右するカギになります。



③ 全て預貯金だけにしていないか

私たち日本人は、長らく「貯金が正解」と教えられてきました。

銀行に預けておけば安全、リスクは避けるべき

そんな価値観が根強く残っています。

しかし現実には、この30年で日本とアメリカの家庭の金融資産には圧倒的な差が生まれました。

金融庁が公表した「金融レポート」のデータを見ると、アメリカでは、

家計金融資産が1995年から2023年で約3.3倍に増加。

一方、日本では同じ期間でわずか1.5倍にとどまっています。

この差を生んだ最大の要因は、「投資をするかどうか」の違いにほかなりません。

「投資は怖い」「損したくない」という思いが、

結果的に「増やさなかったリスク」となって現れているのです。

守るだけでなく、お金にも働いてもらう視点を持つこと。

それが将来の資産を左右する、大きな分かれ道になります。

④ 経費ばかりに気を取られていないか

儲かっている会社ほど、「経費で落とせるから」といつて、

会食や交際費、備品の購入など“目に見える支出”にばかり目が向きがちです。

確かに、経費の活用は会社運営において欠かせない考え方です。

しかし、「今のお金をどう使うか」ばかりに気を取られていると、気づけば何も“残っていない”ということになりかねません。

中には、「経費で落ちるから」という理由だけで、

かつては財務対策として活用されていた保険商品に、
今でもなんとなく加入し続けている会社もあります。

思い当たる方も多いのではないのでしょうか。

制度改正により、以前と比べて見直しが必要なケースも増えてきましたが、
“慣れたやり方”に安心してしまい、改善が後回しになることもあります。

本当に必要なのは、目の前の使い道だけでなく、
「お金をどう残すか、いくら残すか」という視点です。

将来に備えて資金を積み上げる仕組み、

法人と個人のバランスを考えた資金設計、

お金が減らずに働くような仕組み

こうした設計があるかどうかで、10年後の残高は大きく変わってきます。

利益が出ているうちにこそ、

「お金の使い方」よりも「お金の残し方」

に意識を向けるタイミングです。

⑤ ゴール（出口戦略）を決めていない

利益が出ている間は、会社のお金のことを日々の運転資金や年度内のやりくりとして考えがちです。

しかし、社長にとって本当に大切なのは、

「その先にどう着地するのか」という視点です。

いずれ訪れる引退、事業承継、または会社の清算や売却ということがあるかもしれません。

そのとき、どこに・どれだけのお金を残し、誰に・どう渡すのか。

こうした“出口の設計”がないまま経営を続けている会社は、驚くほど多く見られます。

たとえば

退職金は、どの時点で・いくら受け取る予定なのか？

その原資はどう積み上げていくのか？

また会社を継承するためには、いつまでにいくらいるのか？

これらを決めずに日々の経営を続けることは、

ゴールのないマラソンを走っているようなものです。

先の見えない不安をなくし、「今」をどう動くかの判断軸を持つためにも、
自分と会社の「最終ゴール」を一度描いてみることをおすすめします。



おわりに

「利益は出ているのに、なぜかお金が残らない」

そう感じている会社には、いくつかの共通点があります。

今回ご紹介した5つのチェックポイントに、

いくつ当てはまりましたか？

お金が残るかどうかは、運や景気のせいではありません。

“考え方”と“仕組み”を整えることで、ちゃんと結果は変わります。

そしてその仕組みは、今日からでも作ることができます。

まずは、会社と社長個人に「お金が残る状態」とは何かを

一緒に描いてみませんか？

この小冊子を手を取っていたいただいた社長は行動できるタイプの人です。

今のうちに何かできないか”と考えたからこそ

「読んでみよう！」と行動されました。

当社は社長向けの資産戦略セミナーをオンラインにて開催しています。

「ご希望の方は、「LINE」のセミナーのタブをタップいただきますと

ご案内が出ますので都合の良い日にお申し込みください。

仮に「すぐにも相談したい!」という場合は「LINE」から

「相談」と送っていただきますと、個別相談のフォームが

出てきますのでお申し込みください。

またお会いできる日を楽しみにしています。

最後まで読んでいただきありがとうございました。